

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成30年10月15日 VOL. 72

全国に向け 市立病院・訪問看護ステーション及び市が 取組を発信

本市の取組みの展開が認められ、専門誌への掲載が続いています。

看護展望 8月号

看護管理者・看護教育者のための総合誌である「看護展望」(メチカルフレンド社)の8月号の特集は「病院と訪問看護ステーションの連携を一步進める」。

そのPart.2「理想の看看連携を目指して解決した課題」に掲載されたのは、井原詠子氏(藤枝市立総合病院医療支援センター地域医療連携担当部長)と大石文乃氏(志太訪問看護ステーション所長)の共著である「病棟から外来まで病院看護師全員に浸透する看看連携のしくみ構築」。

病院側と訪問看護側が双方の問題を解決してきた過程を振り返りながら、今後の取り組みに発展させています。

コミュニティケア 10月号

地域ケア・在宅ケアに携わる人のための専門誌「コミュニティケア」【(株)日本看護協会出版社】の10月号には「わたしのまちの地域包括ケアシステム」のSERISEに藤枝市が登場。

4・5月号で松田晋哉氏(産業医科大学医学部教授)が「地域包括ケアシステムのあり方とは」の概説を掲載し、6月号から全国の先進市の執筆が始まりました。本市は地域包括ケア推進課藁科仁美課長が依頼を受け「高齢者が活躍し続けられるまちをめざして」を投稿しました。

<過去の掲載自治体> 6月号：東京都八王子市 7月号：新潟県新潟市
8月号：大阪府枚方市 9月号：岡山県倉敷市

在宅医療・介護連携推進会議の進捗状況を報告します

平成30年9月27日(木)の第2回会議では、誰もが望むかたちでの最期を迎えることを支援するために、在宅看取りについて各団体代表に発言を求めました。そこから在宅療養を支える重要な介護サービスである短期入所ショートステイでの「看取りのあり方」について議論が進展しました。

「朝まで議論してもしつくせない」という声も出て、20人の本会議委員の中から12人を選抜して専門部会をつくり継続して検討する事になりました。

専門部会は志太医師会在宅医療サポートセンターが中心となり、10月9日(火)に開催しました。そこでは、事例を持ち寄り具体的な意見交換をする中で、介護サービス事業所の現状と介護現場で利用者の病状把握をすることの重要性を共通理解するとともに、在宅療養をする人は「かかりつけ医」を持つという市民意識の醸成が必要であることを確認しました。

この専門部会での確認を元に、11月に開催する第3回在宅医療・介護連携推進会議で、課題を提起し、支援や解決の方向性を協議していきます。

